

表題 キャンパスを広く学内外で共有される「コモンズ(共創の場)」へ転換

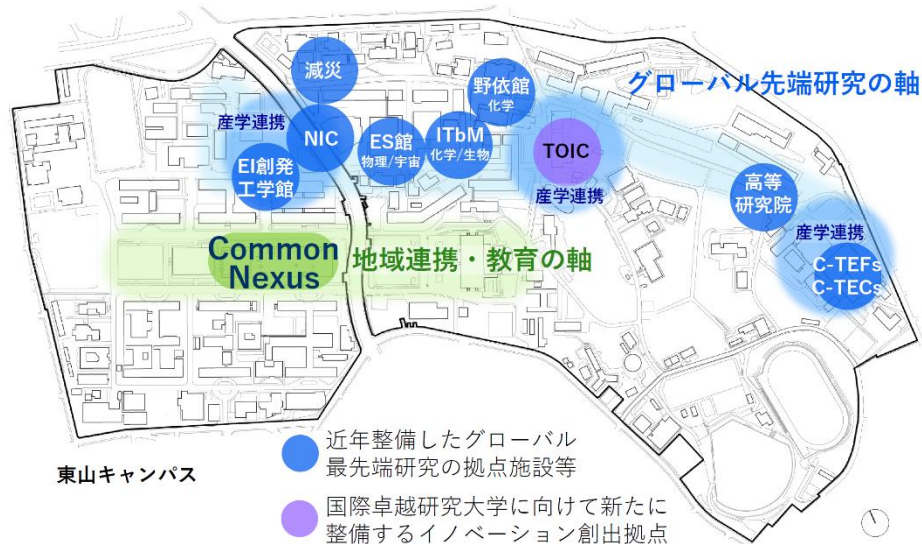
キャンパス全体を「コモンズ(共創の場)」へ転換

東海国立大学機構が、地域および人類共有の財産として、多様な人々が新たな価値創造と社会貢献を行う「知のコモンズ(共創の場)」となることを目指す。

6年ごとに策定している最新のキャンパスマスタープランでは、東海国立大学機構の設立という大きな変革を「キャンパスの創造的再生」に活かすこととしている。

キャンパス全体をソフト・ハード一体となった「コモンズ(共創の場)」へ転換していく。

近年整備してきた、グローバル最先端研究の拠点施設や産学官連携施設における、共創を促す交流スペースを繋ぐ軸を「グローバル最先端研究の軸」とし、さらなる交流拠点の整備と連携を目指す。



国立大学のイメージを一新する「Common Nexus」をオープン予定



2025年には、コモンズとしてのキャンパスを象徴する「Common Nexus」が東山キャンパスの中心にオープン予定。

豊田講堂から軸線上に続くなだらかな谷状の地形が、人々の憩いの場であり、文理融合、地域融合、活動の融合による持続可能なキャンパスの先進モデル環境を創出する。

これを端緒に、キャンパスが「コモンズ(共創の場)」として広く学内外で共有され、多様な人々があらゆる可能性にチャレンジしていく共創の場となることが期待される。